雲鷹丸 第31次 昭和２年度北航海実習日誌　昭和2年6月11日～9月20日

昭和2年6月11日　午前9時岡村所長、長瀬水産局長、小瀬漁撈部長始め教官並に学生数多見送りのため来船。所長及び局長の訓示に次いで日比船長の答辞あり。10時外来者一同下船。万歳歓呼裡に館山に向ひ出帆す。所長、横浜沖迄同船出迎への発動機船にて帰陸せらる。午後4時48分無事館山錨地に投錨す。直ちにモーターボートを下し、積込べき漁具を実習場倉庫内に検す。尚生徒一同の体格検査の件に付、和田医師に打合せ、明後日午後行ふ事に決定す。

6月12日　6時半より左(下)の如き漁具を積込み始め、8時半同作業終れり。
蟹刺網 30反、鮭鱒流網 18反、大鮃延縄 10鉢、鮪延縄 20鉢、ビームトロール 1組、手繰網 1統、鱈一本釣及処理用具 一式

6月13日　午前8時ドライセールを行ひ、午後船内休養とす。午後1時より実習場に於て和田医師に依り身体検査を行ふ。3 4名の軽い神経衰弱者をみとめられたるのみにして、航海にたへざる様な弱病者あるべき筈なし。3時検査終りて後休養。

6月14日　午前8時館山錨地出帆、函館に向ふ。10時15分野島崎灯台沖3.5浬の所を通過。午後7時15分犬吠崎灯台沖通過。風殆どなく、終日天気晴朗にして浪静なれば、平均8.8ノットの速力で心地よく走る。

6月15日　朝より濃霧に立ち込められたるも、前日同様殆ど無風にして、正午過頃迄は海上鏡の如く平穏なりき。霧中信号正しく時々測深しつつ、NEのコースを全速で走る。午後1時頃右舷船首に当り他船の霧中信号をかすかに聞きたるも、間もなく行過ぎたり。5時漸く霧霽(はれ)上る。晩に至りて気圧次第に降下し、正夜には(気圧は水銀柱)757(mmHg, 1009hPa)となり、南寄の軟風(風力3)吹き、浪立ちさはぎ荒模様となる。

6月16日　昨夜来気圧漸次降下し、午前4時には754(1005hPa)となり、南西の軟風波頭白く崩れ始めたり。4時半帆走に移る。以後気圧益々降下し、風次第に西へ回り、又南となりつつ強大となる。午後4時気圧748(997hPa)、南の疾風(風力5)にして波高し。W/Nにコースを取り、津軽海峡に向ひ汽走す。7時25分尻屋崎灯台沖2浬の所を通過(a/c NW)、押し出す潮流に加へて西の強風(風力7)を左舷船首に受けつつあるを以て、全速力を出しつつあれども殆ど進まず。

6月17日　押出す潮流と西の強風のため、午前1時40分コースをSWにとり、外海へと引返す。時に怒涛荒狂ひ、月光凄く冴へ渡りぬ。其後風少しく和らぎたる様なれば、午前5時20分NWにコースを取り、陸奥半島に沿ひ力走したるも、正午頃大間岬にさしかかりたれば、次第に北海道汐首崎へ押し流さるるのみにして、一歩も進まず。再び外海へと引返さざるを得ざりき。午後1時機関を止む。晩に至りて気圧次第に上昇し、11時には754(1005hPa)、風W1となる。11時10分汽走開始。WNWのコースをとり、三度津軽海峡へと向へり。

6月18日　午前9時35分無事函館港内に投錨。一同休養。

6月19日　9時より学生一同本年初めて試みられたる鮭工船ヨーロッパ丸見学。10時半帰船。午後休養。午後4時15分露国義勇艦隊汽船Indicirka号入港投錨に際して、本船右舷船首楼に接触し、フォックスルシャストレーキ上部に長さ3呎(91cm)、深3吋(7.6cm)の凹部を生じ、且つレール約2間(3.6m)を破壊せり。

6月20日　9時検疫官来り、メーンデッキに於て乗組員一同を検疫す。皆無事。10時学生一同海産物同業組合に至り、左(下)記の如き講演を承る。

1. 漁業取引関係一般　　組合長
1. 漁撈方面より見たる北海道　　副組合長
1. 露領方面の工船其他漁業一般　日魯漁業　高セ氏

4時解散。新潟県水産試験場仙波平馬氏来船さる。

6月21日　10時学生一同日本製缶株式会社に至り、工場見学後左(下)記の如き講演を承る。

1. 吾国に於ける鮭鱒缶詰業の起り　同社　菅宮清吉氏

午後1時半漁網船具株式会社網工場見学。3時半解散す。

尚午前中、乗組員によりて鮭鱒流網修繕をなさしむ。

6月22日　当地にて査証を取らんとせしが、石炭搭載の都合上小樽港にて査証することにす。Indicirka号の接触破損部、函館船渠会社の手にて修理完成す。

6月23日　予定より1時間半遅れて午前9時30分小樽に向ひ出帆す。夕方より東寄の軟風吹き、海荒れたり。午後8時51分(a/c N/E)稲穂岬灯台沖5浬の所を通過せり。

6月24日　午前5時(a/c E)神威崎灯台沖6.5浬の所を通過す。向ひ風なる故1時間4浬内外しか進まず。午後2時20分高島崎灯台沖通過し、3時20分無事小樽港内に投錨す。一同休養。午後6時水産試験場吉田技師来船、学生見学の件の打合をなす。7時半帰陸さらる。之より先北海製缶株式会社技師来船、査証其他の件に付尽力せらる。

6月25日　8時半学生一同小樽水産学校見学、左(下)記の講演を承る。

1. 北海道の漁港について
1. 北海道漁業一般につき　伊吹氏

午後1時北海製缶株式会社に至り、工場見学後左(下)記の講演を承る。

1. 日露漁業条約及露領方面漁業一般について　同社 松下氏

4時半同社にて解散す。石炭を85トン積む。

6月26日　午前午後休養。

6月27日　午前9時学生一同北海道水産試験場見学、左(下)記の講演を承る。

1. 鰊の利用に付いて　　吉田技師
1. 鮭鱒工船其他鮪漁業につき　白井技師

午後2時同所にて解散。午後3時水産学校生徒約30名見学のため来船。午前中、水夫により船内にて鮭鱒流網作成をなす。水上及税関官吏来船す。

3/－2(100)

6月28日　9時15分小樽駅発列車にて札幌に至り、左(下)の如き順序にて見学をす。

1. 北海道庁にて小石課長より北海道漁業の大勢に付き講演を承る。
2. 植物園見学
3. 大学水産専門部見学
4. ビール会社見学
5. 拓殖館見学

4時半拓殖館にて解散す。一同7時小樽に帰着せり。

本船にては、水夫、漁夫が午前午後とも鮭流網を作成す。新規流網出来上り合計12反とす。

6月29日　午前午後一同休養す。昼はよく晴たるも、晩に至りて風全く凪ぎ、時々濃霧襲ひ来り、夜霧の海にボーボーと鳴る汽笛を聞く。4時頃より気圧764(1019hPa)を保てり。露国領事館よりペテロ、オゼルナヤ見学につき査証を取る。

6月30日　8時20分抜錨、村上湾に向け出帆す。海上波静なり。午後6時5分(a/c W/N3/4N)焼尻灯台沖4.5浬の所を通過。9時30分(a/c N)天塩灯台沖1.5浬の所を通過せり。10時近く霧かかれるも、すぐ霽(はれ)上りたり。

7月 1日　午前中に宗谷海峡を通過し、鏡の如き海上を船は順調に進み、9ノット近くも走る。午後には時々小雨交りの霧襲ひ来りしも、間も無く晴れ上るを常とせり。然れども終日太陽を見る事能はざりき。

7月 2日　午前8時機関を止め帆走に移りしも、殆ど無風なればセーリングとは名ばかりにして、時々濃霧と共に来る弱いNEの陣風によりて僅かに動くのみ。本朝来呼気は白く人目を惹き、次第に気温の下りつつある事をはっきり教えてくれる。正午華氏52度(11℃)、少しく霧薄らぎて、ぼーっと太陽の影を見る事約10分、晴そうもない。学生室、水夫室にはストーブ、サロンへは火鉢が出された。晩に至りて45度(7℃)迄下りて暖い火の有難味を知る。船は思ひ出した様に少しずつ動く事もある。

7月 3日　正午頃北寄の軽風訪れたとは言へ、1時間毎のハンドロッグは精々1浬内外を示すのみにして、帆走とは名ばかり也。晩に至り全く凪ぎて海も波も船も帆も微動だに見せない程である。唯ルックアウトによりて次から次へと吹き鳴らさるるホッグホーンのみ絶へず此静粛を破りつつあり。

7月 4日　明けても暮ても相変らず霧の中に総帆静に浮ぶを見るのみ。午後に至り南寄りの微風到りて port tack を starboard tack に受け代える。

7月 5日　午前4時頃迄小雨降り、何時しか霧追い払はれたり。晩に至り風北よりの軟風となり3ノット内外走る。気温ミッドナイトには華氏41度(5℃)となる。学生乗組員一同元気なり。

7月 6日　午前5時頃迄NEの軟風吹き、NW/Nのコースを3乃至4ノットにて走る。以後次第に風力衰へ北へ回りたれば、1浬内外を保つのみ。終日終夜霧に包まれつつあれり。午

前10時 wearing をなし、starboard tack を port tack にする。午前正午共に天測も出来ぬ。

7月 7日　午後7時頃よりSEの軟風吹き始め、ENEのコースを5浬内外走る。然れども霧尚やまず。

7月 8日　午前4時過ぎ霧全く晴れ上りて、以後南の軟風晩に至るも尚吹き続けたれば、ENEのコースを6ノット内外にて走る。

7月 9日　昨朝来の南風次第に弱りたれども、西へ回りたれば追風となり、正午頃より3ノット内外ずつ走る。晩に至りて北よりの風に変り、フォアキャッスルにて絶へずホッグホーンが鳴らされつつあり。

7月10日　風殆ど無く、ENEのコースを僅かにゆれつつ進むのみ。午後11時50分いよいよ村上湾に向け汽走し始む。天測出来る。

7月11日　午前10時過ぎ久し振にて濃霧霽れ渡りて、白雪に覆はれたパラムシロの山々や阿頼度島は、初夏の光に輝き乍ら左右に現はる。船は既に同島との間を村上湾指し汽走しつつあるのである。零時半村上湾に投錨。西の風強し。気圧次第に上昇し、午後8時には756(1008hPa)を示し、風凪ぎ、又月影清くデッキを照らす。

7月12日　午前10時学生一同上陸、馬場氏の経営せる魚肥製造工場見学す。同工場にはミーチン式魚肥料製造機1台、並に蟹缶詰製造機一式備付けありて、手繰によって漁獲する鰈、カジカ、蟹等を処理しつつあれり。正午より水取を始め、3時同作業終る。河水15トン積込。尚河から取った水にて風呂を沸かし、一同入浴す。時々霧襲ひ来る。

7月13日　午前午後総員休養とす。そよ吹く南風に朝霧全く追払はれ心ゆくばかり晴渡りぬ。9時半一同上陸。各自弁当持参にて緑のパラムシロの野辺へ遠足に出かく。目下は美しい高山植物の花盛りにして、今採取せしものを示さば次の如し。

ゴゼンタチバナ、ハクサンイチゲ、ヤマガラシ、リンネ草、キヂムシロ、ツマトリ草、マイダル草、フデリンドウ、ツガザクラ、オヤマノエンドウ、エンコウサウ、キバナノコマノツメクサ、エンレイ草、マンネンスギ、ハクサンフウロウ、チングルマ、千鳥ギキョウ、クロユリ、タカネツメクサ、ミヤマシホガマ、イワヒゲ、其他シナノキンバイ、ハマハタザオ、ミヤマオトコヨモギ、エゾホソヰ等を見る。

晩に至りて月影清くデッキにうつせど、南の風次第に強く、気圧降下する傾向となる。之り先、午後馬場駒雄氏来船す。

7月14日　午前5時半ペトロパウロスクに向ひ出帆す。南風強く霧時々襲ひ来りしも、午前9時頃ロバッカ岬沖を無事通過し、コースをNE/Eにとり、南風を右舷船尾に向けつつ、11時より帆走に移る。正午頃一時風力衰へたるも2時にはSSEの4となり、6ノット内外にて愉快に走る。midnightの航海日誌は次の如し。

Gentle breeze and cloudy weather with moderate sea.

風S3，気圧762(1016hPa)，曇り，気温43度(6℃)，表面水温8.3度

7月15日　午前10時汽走に移る。午後3時4分ペトロパウロスク港外に投錨す。直ちにロシア官憲(港務部長、税関長、憲兵隊長外軍人官吏計3名)及び通訳として吾が領事館書記生来船、入港に関する書類を検閲し無線電信室及び食糧庫の封鎖をなし、人員を点検し、見張の官吏1名を残し、4時半帰陸せり。一同上陸を許可されたるを以て、午後6時上陸、領事館に至り地方の状態を大体承りし後、小雨に煙る小さな北の町を見物し、8時帰船せり。港内には浦塩通ひの日本汽船(1千トン級)及び支那汽船(1千5百トン位)横付けとなり、石炭及び貨物の陸揚げをなしつつあり。尚ロシア軍艦1隻(2千トン位)及び捕獲されたる密猟船(50-60トンの帆船)2隻係留されあるを見たり。ミッドナイトに至りて見張官吏帰陸せり。

7月16日　春雨の様な小雨終日降り続きたるも、夕方(午後8時)に至りて霽上る。午前9時半過ぎ、パイロット(港務部長)来船、10時5分抜錨。10時35分四囲緑に囲まれた湖水の様に静なるペ港内に投錨せり。港内外にはたへず鮭鱒の跳上るを見る。土人が刺網にて捕獲するのを見れば、全部紅鮭にして、生１尾平均20銭にて売買せらる。尚2-3寸の鮭の稚魚非常に多く、誰しもすぐ数尾を釣上る事を得。7,8尾フォルマリン漬としたり。

7月17日　午前8時過快晴となる。9時学生一同上陸、領事館書記生の案内にて付近の土民部落及農事試験場見学。路傍にはアヤメ、ハマナス、クローバ等の花盛りにして、至る所の山野に鈴を付したる牛が放牧され、各家々には多く養鶏されつつあるを見る。農園には目下燕麦、赤蕪、菜等植付けあり。4時帰船す。5時よりボートレースを行ふ。ロシア側より５人乗競走用ボート２隻、本船より捕鯨ボート(学生)１隻、角舮(水夫)１隻を出し、計４隻にて港外に1,500m位のコースを選び競漕せしも、本船側はボートが悪く第３位と第４位となる。其後学生３名日本水泳の模範型を露人に示せり。時に午後7時半、水温13度なりき。

7月18日　8時ドライセール。Ａワッチ：フォアマスト、Ｂワッチ：メーンマスト、Ｃワッチ：縦帆。9時より水積込開始、11時半同作業終る(淡水5トン)。 11時50分絞帆す。午後一同休養。

7月19日　午前9時過ロシア官憲(港務部長、税関長、憲兵隊長)来船、無船室、食糧庫等の封鎖を解く。人員点検後、10時抜錨。港務部長パイロットとして10時20分無事港外に投錨、 直ちにロシア官憲帰陸す。10時50分オゼルナヤに向け出帆す。時々霧襲ひ、午後次第に曇り、晩に至りて雨となる。風止む。うねり高し。気圧765(1020hPa)を保てり。

7月20日　正午頃ロバッカ沖通過。午後1時半より帆走に移る。午後2時頃次第に南寄となり、午後4時頃Nのコースを5ノット内外で走る。

7月21日　9時20分Bワッチ鱈釣実習開始、11時半同実習終る。漁獲は鱈10尾、大鮃1尾(450

匁 1.69kg)。本漁場はヤイナ沖5浬にして、水深25尋、表面水温10度なりき。正午汽走、オゼルナヤ沖1浬の所に至り午後1時投錨す。1時半オゼルナヤ工場より阿部、中田、冷蔵船大光丸より山田、石田の諸氏来船され、3時帰還せらる。午後8時18分ロシア官憲2名及通訳1名来船、8時35分帰陸す。晩に至りて小雨降り、風凪ぎ海上平穏となる。

7月22日　午前8時半オゼルナヤ工場より中田氏来船。英国塩50俵積込む。9時学生一同上陸、缶詰工場見学後オゼルナヤ川を見に行きたるも、鮭鱒未だ登り居らず。途中、クロユリ、コケモモ、アオノツガザクラ、イワヒゲ、チシマギキョウ、ゴバノイソツツジ、リンドウ等の高山植物を見る。午後4時帰船。南寄の風次第に強くなり天候険悪となりたれば、直ちに抜錨、約1時間西に向け汽走し後、午後5時半より帆走に移り、次で踟＿す。10時頃気圧766(1021hPa)、南の疾風(風力5)となる。 ← 踟

7月23日　南々東の強風(風力7)終日終夜吹き通し、気圧依然として765を保てり。時化、踟＿。蟹工船遼東丸見学に付き、同船乗組近藤道之助氏と無線を以て打合をなす。 ←

7月24日　前日同様終日南寄の強風吹き通し、其上雨迄加れり。気圧午後に至りて767を保つ。晩に至り風力少しく衰へたり。午後零時から4時の間にワッチ中の学生鱈5尾釣上げだり。

7月25日　気圧午前1時頃迄は767(1023hPa)なりしも、次第に下りて午後10時には763(1017hPa)となる。南寄の風一日中或は強く、或は弱く吹き通し、海荒れたり。午後8時頃朝来の雨霽れ、霧襲ひ来る。時々測深す。時化、踟＿。学生、船員に軽小なる病人 ←
7,8名出来たり。

7月26日　相変らず南寄の疾風(風力5)終日終夜吹き続け、時々雨や霧襲ひ来る。午前10時水深72尋、底質砂泥、表面水温8.5度の所にて、鱈一本釣60尋延し、鱈2尾(12ポンド位 5.4kg)釣上げ、其内1尾の胃中よりエビ1匹、蛸(60匁)2尾出でたり。
「気圧」「本日午後6時には142°E, 51°Nの所に29.21吋(989hPa)の低気圧ありて、東に進行しつつあり」との報、午後9時に来る。本船のバロメーターはミッドナイトには756(1008hPa)を示す。風SSW5、時化、踟＿。 ←

7月27日　南々西の疾風終日終夜吹き続け、気圧又755を保ちて上らず。学生中に軽小なる病人(腹つまり)12,3名出来たり。踟＿しつつ、NWの方へ1,2浬位ずつ流されつつあれり。depression(低気圧) 6:00pm: 145°E, 52°N; Baro. 29.29(992hPa); dir. East ←

7月28日　前日同様時化。午後6時左舷開を右舷開きに受け変える。

7月29日　連日の荒天も漸く回復致せし故、午前8時より汽走し、午後2時 153°30'E, 54°41'Nの所に至りて投錨し、左(下)記漁業実習を行へり。
[水深: 21尋, 底質: 砂, 表面水温: 11.0, 10尋水温: 10.1]
Bワッチ: 午後2時半より4時半迄、鱈一本釣実習(15本)をなす。漁獲20尾、内12尾塩蔵となす。

31-6 (104)

Cワッチ: 蟹刺網実習。3時半出漁、4時15分帰船す。第4号，第5号角舮使用。刺網計30反投網せり。

Aワッチ: 鮭鱒流網実習。午後7時出漁。第4号，第5号角舮(各7反ずつ)使用し、11時半帰船す。漁獲物: 鮭4，鱒4。

7月30日　8時Bワッチ蟹網出漁、30反揚網し、9時5分帰船す。雄蟹3，雌蟹10尾の漁獲あり。A，Cワッチ20名、約1時間(8-9時)鱈釣実習をなす。漁獲18尾、塩蔵15尾。10時20分抜錨し、午後4時50分 155°31'N，53°56'Eの点に投錨す。

[海深: 32尋，底質: 砂泥，水温: 表面 9.7，10尋 9.2，20尋 8.6，30尋 4.4]

午後5時20分 Aワッチ(No.4,No.5 各15反ずつ)蟹網投網、5時42分帰船す。午後5時30分よりB，Cワッチ鱈釣実習を行ひ、6時30分同実習を終へり。漁獲60尾、内54尾塩蔵とす。[鱈最大 27ポンド，平均 21ポンド]

7月31日　A，B，Cワッチ(30人)朝食前(30分間)鱈釣漁獲: 30尾(全部大鮃の餌料となす)。8時蟹網揚網のため出漁、9時帰船す。漁獲雌1匹もなく、雄291匹。[蟹最大8吋，小5吋，平均6.5吋。缶詰1ポンド 125個製造] 9時25分 No.4,No.5(各8鉢)及びスタンボート(4鉢)に分乗し、大鮃の延縄出漁(餌料は鱈の切身)。10時20分頃風次第に強大となれば帰船信号をなし、揚縄を命ず。各ボート正午帰船。[漁獲: カニ7匹，タラ7匹，スケトウ1匹，カレイ3尾，カスベイ1尾] 午後1時45分Bワッチ蟹網投網出漁、2時20分帰船す。之より先、1時よりA，Cワッチ蟹缶詰実習を行ひつつあり。Bワッチ帰船後直ちに手伝ふ。4時25分実習終る。

8月 1日　午前8時Aワッチ2隻のボートに分乗し、蟹網30反揚網のため出漁、9時10分過ぎ合計雄140尾の漁獲をなして帰船するや、それ迄鱈一本釣実習をなせるB，Cワッチは直ちに蟹網さばき及び甲はがし実習に移る。此時に当り、10時来の霧NWの微風に追払はれ、心行くばかりの晴天となり、世は正に真夏である事を初めて知らせて呉れる。正午20トン位の発動機船(蟹網船)来りて、此処はどこかと問へり。午後2時Cワッチ蟹網投網し来りて、A，Bワッチと同じく蟹缶詰実習に従事せり。3時同実習終る。[1ポンド缶詰 57個製造] 4時半より6時迄A，Cワッチ鱈釣実習を行ひ、58尾漁獲し、内53尾塩蔵をなす。Bワッチ午後7時流網出漁、11時帰船す。漁獲鮭14，鱒30なりき。皆南より刺し居れり。主として浮子方のみ多く、9時半頃かかりたるを知る。午後5時本船の周りを鯨が数回回り居れり。

8月 2日　Cワッチ8時蟹網揚網出漁、9時帰船。漁獲雄蟹161尾[平均6吋]、雌1匹もなし。Aワッチ(10人)9時迄鱈釣実習をなす。平均18ポンド、30尾漁獲す。9時15分抜錨、コースをS1/4Eに取り、キシカ沖に向ふ。航行中網さばきをしたる後セット。ワッチにて鮭鱒(前夜漁獲せしもの)及蟹缶詰実習[51個製造]をなす。午後2時40分同実習終れり。之より先正午呉羽丸に出逢ひ相互多幸なる航海を祝しつつ別れたり。6時キシカ沖7,8浬の所、即ち155°56'E，52°51'Nの所に投錨す。

［水深: 16尋, 底質: 小石, 表面水温: 14.0, 15尋水温: 8.5］

潮流激しく(6時頃)北へ1.5浬位なりき。午後7時Ｃワッチ流網出漁す［14反］。8時頃風次第に強大となり、波頭四方に崩れ、霧さへ襲ひ来りたれば、9時10分頃より本船にて帰船信号をなしたり。10時50分帰船す。漁獲: 鮭40尾, 鱒38尾、皆浮子方南より刺す。

8月 3日　午前8時よりＡワッチ鮭鱒塩蔵処理をなす。8時半同作業終る。10時半抜錨、11時40分 155°47'E, 52°46'Nの所に投錨す。午後零時半より1時半迄Ｂ,Ｃワッチ(20名)鱈釣実習をなす。漁獲平均10ポンド5尾。午後8時25分鮭流網出漁(14反)、10時10分帰船す。漁獲: 鮭6, 鱒5。全部南より刺せど、上下まばらなりき。7時頃迄SSEの風強まり一時見合せたるも8時過ぎて漸く鎮まらんとせしかば、右(上)の如く出漁せしも、霧襲ひ其上白浪次第に高くなり、見る見る北へ押し流されたるため、かくの如く早く切り上げたり。帰船と同時に大雨となる。

8月 4日　8時抜錨、蟹工船見学のため南西に走る事約3時間にして、11時遼東丸の傍に投錨す。午後2時学生一同2隻のボートにて同船を見学に赴く。同船は総トン数2,363トンにして、1ラインの缶詰機械を備付け、18,000箱の予定にて漁夫、雑夫、計300名乗組み居れり。然して目下14,000箱製造し了へたりと聞く。6時半帰船す。直ちに抜錨、E/Sに9浬走り、156°0'E, 52°40'Nへ投錨す。同所は水深18尋, 表面水温11度なりき。潮流NNW 1。8時10分Ｂワッチ流網に出漁、2時半帰船す。漁獲1尾もなし。夜半に至り南東の風次第に強くなる。

8月 5日　8時半Ａワッチをして蟹手繰網を改造し、鱈を目的とする中層手繰網を拵へさせ、Ｂ,Ｃワッチをしてビームトロールの組立をなさしむ。10時同作業終れり。之より先本船は抜錨し、SEに走りつつあり。10時2分よりESEの方へ1.5浬の速力でビームトロールを曳き始む。海深: 2 5尋、底質: 砂、潮流: NW1/4、ワープ: 140尋延ばす。11時10分機関を止め、ワープを巻き始む。鰈326ポンド漁獲す。其他25ポンド。午後2時37分1•3/4乃至2•1/4の速力で曳き始む。3時57分揚網す。漁獲425ポンド、其他30ポンド也。それより西へ約10浬ほど走り、155°57'E, 52°25'Nに至りて投錨す。

［水深: 25尋, 砂, 表面水温: 11.0, 底水温: 6.8, 潮流: NNW 1浬, 透明度: 20呎］

5時50分Ａワッチ蟹網投網出漁、6時半帰船。

8月 6日　Ｂワッチ蟹網38反揚網出漁、9時帰船。漁獲雄蟹60匹、10時網さばき終りて11時抜錨、SEに走る。午後1時35分 156°25'E, 52°17'N, 巨岸: 約13浬, 水深: 21尋, 底質: 砂泥, 潮流: 北西へ1/4, 表面水温: 11.5 の所にて鱈を目的とする中層手繰網を本船とモーターにて約1時間1•1/4浬の速力で曳きたるも、漁獲皆無。それよりS/Eへ2時間汽走し、5時10分には 156°20'E, 52°02'N に投錨す。

［水深: 18尋, 底質: 砂, 表面水温: 12.0, 17尋水温: 8.1, 水色 5］

午後7時Ｃワッチ流網出漁(17反)、漁獲鮭25(dog: 18, red: 7), 鱒4尾にして、12時

帰船す。本日石炭残40トン。実習期間延長につき講習所あて打電す。差支なしとの返事に接す。

8月 7日　8時よりAワッチ前夜漁獲せし鮭21，鱒1を塩蔵す。9時半抜錨、S/Wへ汽走す。午後1時46分 156°23'E，51°38'N の蟹工船の近くに投錨す。同工船を本日中に見学する予定なりしも、南の風次第に強くなりたれば、取止めたり。本錨地には神武丸(5,168トン)及ヨーロッパ丸(3,078トン)を始とし、中積船たる700-800トンの汽船2隻、バーケンチン(300トン)1隻、並に水産局金鵄丸等、本船と合計7隻も碇泊し居る故、港の如き感あり。之ヤイナ沖5浬の所也。午後4時頃鱈釣をなしたるも400匁のもの1尾釣れたるのみ。

8月 8日　午前零時10分Aワッチ流網出漁(14反)、5時帰船す。漁獲: dog salmon 10, silver 2, red 1, pink 2. 主として3時より4時迄に南北より刺す。潮流北へ3/4浬、海上波静なりき。9時学生一同鮭工船神武丸を見学に行く。同工船は総トン数5,168トンにして、缶詰機械5ラインを備へ、1日の製造能力4,000箱にして、漁夫、雑夫計700名乗船し居ると聞く。予定は8万箱なるも、不漁にして1千箱位しか出来ていなかった。10時半帰船す。午後波静なるを見て、同船の原動力たる改良網2統を見学す。5時抜錨、N1/4Eへ5浬走りて投錨す。時に5時30分なりき。

8月 9日　午前2時Bワッチ流網出漁、5時帰船す。漁獲鮭28，鱒2を塩蔵となす。表面下2乃至3間の所に南北より刺す。9時40分抜錨、西方へ走る事約40分にして水深: 27，底質: 砂，表面水温: 11.3，底水温: 5.4，の所に投錨す。Aワッチ直ちに蟹網投網出漁、11時帰船す。11時より正午に至る1時間鱈一本釣実習を行ひしも、小鱈1匹及スケトウ1匹しか釣れず。午後7時Cワッチ流網出漁、風波大なるため本船より帰船信号を受け、9時半帰船す。漁獲鮭4尾のみ。

8月10日　NWの風強し。7時Cワッチ蟹網28反揚網出漁し、8時15分帰船す。雄蟹22匹漁獲す。之より先、A，Bワッチ船内にてボートの吊変へ曳上げ及び出帆準備をなす。8時半同作業終りて朝食とす。午前9時15分抜錨、いよいよ漁場を後にSW1/2Wのコースを取り、根室に向ひ汽走す。午後霧襲ひ来り、晩に至るも霽れず。

8月11日　終日南の軽風吹きたれども波静にして順調に走る。時々濃霧襲ひ来る。

8月12日　終日濃霧にして、大変寒さを覚ゆ。午前9時45分南ウルップ水道通過の際、突然海藻のため海面変色したるを認め、直ちに停船、測深すれば僅かに13尋なりき(二子岩付近ならん？)。それよりコースをE(今までS/W)に向け、午後2時よりSEに走り、無事濃霧の中に同水道を通過し、9時より根室に向ひ、SWのコースを取れり。此時霧尚はれそうもなく、気温43度(6℃)に下れり。

8月13日　朝来南東の軟風(風力3)吹きたれば、午前5時より帆走に移れり。時に気圧762(1016hPa)なりしも、以後次第に降下し、午後5時には754mm(1005hPa)となり、SE/Eの疾風(風力5)吹きすさべり。以後風は漸次南よりとなり、時々雨を交へ、朝来の濃

霧はれ上れり。

8月14日　午前4時には気圧750(1000hPa)、風Sの5位なりしも、次第に天気回復し、午後1時過ぎ2週間ぶりにて暖かく輝ける太陽を望み見、一同喜悦す。然れども波浪大にして風尚やまず、午後2時より汽走す。WSWのコースをとる。晩に至りて又曇れり。午前及正午共に天測出来る。

8月15日　朝から小雨降り続き、北寄の至軽風(風力1)を右舷真横に受け、根室へと走る。海上昨日来の余波を受け波高し。午後4時頃よりはれ上る。晩には久しぶりにて、マストにちらつく星と水平線から盛上り来る月の壮観を見る。午後10時4分 145°50'E, 43°32'Nに投錨し、夜明を待つ。

8月16日　朝来ほとんど無風にして海上鏡の如くなれども、霧深くして抜錨する能はず。午前10時40分漸く薄らぎたるを以て、根室に向ひ汽走す。午後1時54分根室港外に無事投錨せり。2時57分税関吏来船、3時20分帰陸す。3時45分検閲官来り、4時帰る。4時13分抜錨、同28分港内に投錨す。一同休養。4時30分学生長谷川喜一乗船す。得撫丸鵜澤氏船に来る。

8月17日　午前9時トップゲルンヤード2本(フォーア、メーン)下し後、船内ボート移動及ドライセールをなし、同作業終りは11時なりき。午後休養。本日ヤード卸し作業中、水夫浜中手指を怪我したれど、大したことに至らずに止む。石炭60トン積む。淡水補充。

8月18日　午前10時半よりメッスルームにて学生のため根室付近の漁業に付き、根室支場長上田技師の講演あり。午前11時半水57トン積込終了。午後休養。終日濃霧襲ひ来り、不快なる地方だと思ふ。

8月19日　午前塩蔵鮭、鱈の手返をなし、一方鮪延縄漁具を造る。午後1時鮪延縄餌料たる冷蔵イカ1,500尾積込み、樽のまま冷蔵庫に入れたり。以後休養。

8月20日　午前9時根室港抜錨、鮪漁場に向ひ汽走す。天気晴朗にして海上鏡の如く、水晶島西方(表面水温18度)に鮪の跳上るを見る。午後9時過ぎ、一時降雨ありて気温61度(16℃)に下れり。

8月21日　午前10時機関を止め、夕来るを待つ。午後5時30分 No.4, No.5(各8鉢ずつ)出漁。漁場 146°30'E, 42°10'N, 表面水温: 21.0, 10尋: 18.3, 20尋: 11.5, 30尋: 8.6, 透明度: 66呎, 気圧: 761

6時過ぎより濃霧襲ひ来れば、帰船信号を数回行ひ、モーター(ボート)にて捜索に出掛けたりしも、それ程の心配もなく、8時15分帰船す。No.5の短ブラに青鮫(10貫位)1尾かかりしのみ。

8月22日　本船プープデッキより14鉢NWに向ひ、延縄開始 午前4時30分、終 4時55分。揚縄(第4号艇使用)開始 7時、14鉢揚終り 8時20分、漁獲: 青鮫 3尾[10貫、放棄]。漁場 145°47'E, 42°18'N, 表面水温: 22.0, 30尋: 7.5, 透明度: 90呎, 風: S 3

揚縄後直ちに、即ち午前8時半NW1/4Wに向け汽走し、正午コースをSWに変ず。午後3時機関を止め、夕を待ちたれどもSSWの風強く、漁業実習をなし能はずして、そのまま明朝を待てり。

8月23日　快晴にして午前中SWの風なりしも、正午頃無風となり、午後SEとなる。

漁場 145°47'E, 42°12'N, 表面水温: 23.0, 20尋: 12.2, 30尋: 8.0

午後5時12分本船プープデッキより延縄開始せり。5時35分Nに向け16鉢延終る。午後7時30分No.4ボートにて揚縄開始、10時揚縄し、帰船す。漁獲: 短ブラに黒鮪1尾[5尺、15貫、食料]。午後10時40分SWに向ひ汽走す。

8月24日　午前4時10分本船プープデッキより延縄開始、同35分16鉢投縄終る。

漁場 145°21'E, 41°47'N, 表面水温: 21.5, 10尋: 12.5, 20尋: 6.2, 30尋: 4.2, 風: SE 2, 波浪: 3, 気圧: 762

7時15分揚縄を開始したるに、縄11.5鉢行方不明となるを知り、正午近く迄捜索すれども見当らず。SEに針路を取り、午後2時機関止め、夕の来るを待つ。然れどもSWの風強く漁撈実習をなし能はざりき。

8月25日　晴天なりしも朝はNWの風強く延縄する能はず。午前7時よりSWに汽走し、午後5時機関を一時止め海水観測をなす。

漁場 144°40'E, 41°30'N, 表面水温: 20.6, 10尋: 12.5, 20尋: 3.5, 30尋: 2.9

投縄開始午後6時17分、7時40分揚縄開始、8時50分揚縄終れり(No.5ボート1隻使用)。漁獲なし。直ちにNW/Nに向ひ、汽走す。

8月26日　午前1時機関を止め、夜明を待つ。

漁場 144°14'E, 42°00'N, 表面水温: 19.0, 10尋: 13.5, 20尋: 9.0, 30尋: 7.0

午前4時21分本船プープデッキより延縄開始、4時40分9鉢延終る。7時No.5ボートにて延縄揚げ始め、同47分揚終る。漁獲: 黒鮪(15貫位)1尾[缶詰]、体温が表面水温より2.8度高く、20.8度なりき(当時ひれ尾等ビクビク動かし居れり)。

午後漁場 144°14'E, 42°00'N, 表面水温: 19.5, 30尋: 6.0, 透明度: 78呎 にして午後5時32分投縄終り、7時半揚げたり。漁獲1尾もなし。其後機関を止め明朝を待つ。

8月27日　午前漁場 143°59'E, 42°06'N, 表面水温: 18.5, 南風 2

午前4時35分北に向け投縄開始、同5時9鉢延終る。風浪強大となりたれば、5時No.5ボートを降ろし、6時30分揚げ終る。漁獲なし。

午後漁場 143°45'E, 42°00'N, 表面水温: 18.5

午後5時延縄開始、5時20分9鉢延終る。風浪強大となるを見れば、6時半揚縄始め、7時20分揚げ終る。漁獲なし。揚縄後直ちにSSWに向け汽走す。

8月28日　午前4時機関を止め、漂__す。8時頃迄はSEの風なりしも、次第に東へ回り、午後8時頃には5乃至4の東風となり、波浪大にして朝夕共に漁業実習をなし能はず。晩に至り雨さへ交り、風の止む様子なし。 ← 躍

8月29日　昨日来の風尚止まず、午前8時頃に至りてもSSEの風力3を示し、白浪四方に崩るれば漁業実習を行ふ能はず。午後に至りて風次第に鎮りしかば、3時半よりNEに向ひ汽走する事9浬にして、漁場 142°31'E, 40°49'N に至り、5時延縄開始し、Wに向ひ9鉢投縄す。7時19分揚縄開始、8時10分揚げ終る。漁獲なし。海況 表面水温: 21.5, 10尋: 18.4, 20尋: 9.0, 30尋: 5.2, 透明度: 48呎, 風: SE 1
揚縄後直ちにNEに向ひ汽走す。

8月30日　午前1時35分機関を止め夜明を待つ。朝に至り北寄の風次第に強くなりて、昼頃東より南に回り、晩に至りて西南の5乃至4となる。気圧午前5時には754(1005hPa)なりしも、午後2時には746(995hPa)に下り、以後同示度を保ちつつ明日を向へり。晩尻矢の灯台を見る。

8月31日　午前1時頃気圧745となりしも、漸次上昇し、8時には749(999hPa)、風NWの5となる。天気晴朗なれども波高く、船は木の葉の様に漂ふ。然れども一同元気にて船酔する者一人もなし。午前10時半北に向ひ汽走し始め、全速力を出せどもパテントロッグは1時間3乃至4浬を示すのみ。晩に至りて風浪やや衰へたり。午後11時に至りチキユー岬灯台、恵山灯台を見る。

9月 1日　昨日来の風次第に鎮り、午前6時半室蘭港内に無事投錨したる頃は、東寄の微風となり、空高く晴渡れり。7時30分ドライセールをなし、8時より上陸を許す。午前9時船長上陸し、室蘭支場長横山技師と学生の見学及び講演に関する打合せをなし、午後2時帰船す。

9月 2日　7時ウワッシデッキ、7時30分終り、午前10時10分石炭積込み始む。10時30分横山技師来船、胆振支庁管内に於ける水産業につきメッスルームにて約1時間の講演あり。午後1時15分学生一同上陸、横山氏の案内にて製鋼所を見学に行く。4時半工場見学を終り、同地にて解散す。午前は快晴なりしも、午後は曇り、晩の9時半には小雨さへ降り来れり。気圧漸次下りつつありて、10時には752(1003hPa)となれり。

9月 3日　朝より小雨交りの南東の風強く、気圧次第に下り午前7時には750(1000hPa)なりしも、午後5時には745(993hPa)を示し、以後漸次上昇せり。午後4時頃雨はれたれども、尚寒さをおぼゆる事誰しも同感なりき。時に気温57度(14℃)なりき。

9月 4日　午前午後休養。午前晴後曇り、昼頃ほとんど無風なりしも、午後7時頃はWの3位の風吹けり。時に気圧748(997hPa)にして、次第に上昇する傾あり。

9月 5日　午前8時宮古に向ひ出帆す。9時帆走に移り、西寄の軟風を右舷に受けつ、SSEのコースを正午頃7ノット内外で走る。晩に至りて風力やや衰へ少しく南に回りたれば、3ノット足らずしか走らず。

9月 6日　南西の微風1日吹き通し、気圧又755(1007hPa)を終日保持し、時折小雨降りたり。午後11時半コースをS/Wにとり、宮古に向ひ汽走す。

9月 7日　正午宮古港に投錨す。1時半水産学校生徒約100名見学のため来船す。学生一同

休養。

9月 8日　時々小雨降りたるも、午前10時学生一同上陸、先ず細切昆布製造会社を見学し、水産学校に至り、岩手県に於ける水産業の大要につき講演を承る。午後1時帰船後休養とす。晩に至りて時雨降り初めてやまず。気圧764(1019hPa)を保持せり。

9月 9日　午前中に建網漁業見学の予定なりしも、降雨激しく中止せり。午後2時水産会堀田熊次郎氏来船、三陸地方の漁業について学生のためメッスルームにて約1時間余り講演さる。終日の雨にて総員船内休養。

9月10日　昨日の雨に引き替へ朝来快晴、内親王殿下御誕生の祝意を表し、8時15分三章旗を掲揚す。総員午後5時迄休養。午後6時女川に向け出帆す。外海ほとんど無風なれどもうねりあり。晩に至りて曇天となり時々小雨さへ降れり。

9月11日　午前8時11分鏡の如き女川港に投錨す。学生休養。

9月12日　終日休養。朝来の小雨午前10時頃止む。午後1時半渡ノ波水産学校生徒約30名見学のため来船す。4時帰校せり。日比船長渡波水産学校を訪ねる。

9月13日　午前7時鮎川港に向ひ出帆す。11時鮎川港入港。NEの風強し。午後2時頃大雨さへ交り来れり。一同船内休養とす。午後3時捕鯨船鯨洋丸抹香鯨7頭を捕獲し、両舷に引き来れり。晩に至りて又捕鯨船4隻入港す。茨城県茨城丸入港す。

9月14日　午前10時学生約15名捕鯨船鮎川丸を見学に行く。正午帰船す。之より先午前10時より正午迄、残り学生には運用航海の口答試験を二等運転士新野氏施行せらる。残りの学生は後日行ふ。午後に至るも朝来の雨霽れず。

9月15日　朝来快晴。午前9時20分各自弁当持参、モーターボート及び捕鯨ボートにて一同金華山へ見学に行く。11時半頂上に登れり。午後3時帰船す。之より先午前9時半小学生約50名本船見学に来船、11時帰船す。

9月16日　午前5時50分石浜に向ひ出帆す。8時40分松島湾外に投錨す。9時10分モーターにて捕鯨ボートを曳き、学生一同並に乗組船員松島見物に出掛く。10時上陸、瑞巌寺其他を見学し、3時帰船す。午後4時モーターボートにて塩釜に至り、8時帰船す。

9月17日　午前8時館山に向ひ出帆す。午後に至りて気圧少しく昇る傾向あり。午後6時31分塩屋埼灯台沖通過。

9月18日　朝より小雨降り続きたるも、正午頃霽上れり。午前4時犬吠埼灯台沖を通過し、午後5時洲崎灯台沖をめぐりて、6時8分館山湾に投錨す。

9月19日　7時より実習場倉庫へ漁具を陸揚げす。8時20分同作業終れり。9時学生一同上陸、実習場に於て体重検査をなす。結果、出帆前と大差なし。以後休養とす。

9月20日　午前8時東京に向ひ出帆す。午後2時11分就航102日、全航程4,300浬の航海を無事終へ、品川沖に投錨す。岡村所長、小瀬漁撈部長、長瀬水産局長、下田技師出迎へ来船さる。乗組学生一同及び船員に対し所長、局長の挨拶ありて、2時30分帰陸せらる。3時過ぎ本所学生及諸教官7号艇にて出迎へのため来船、3時帰船せらる。本船学生には9月25日迄休養を与ふ。